



～ 夢ひとすじに ～  
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 27 年度 第 7 号  
平成 27 年 10 月 1 日 (木) 発行  
さいたま市立宮原中学校  
メールアドレス  
miyahara-j@saitama-city.ed.jp  
ホームページアドレス  
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

## 「ひとつのことば」

校長 やました せいじ  
山下 誠二

前期の学校評価で「教師の言葉遣い」についてのご指摘を何点かいただき、校内の職員研修でも取り上げ、事例研修を行いました。また、9月には、アンケート調査も実施しました。ご協力ありがとうございました。ご指摘があった点には、指導いたしました。また、今後の研修にも生かしてまいります。教員は毎日、子どもたちの前でさまざまな言葉を発しています。感じやすい子どもたちは、教員の一言一言に反応して、喜んだり悲しんだりします。しかし、教員は慣れで、自分の言葉のひとつひとつが子どもたちの心に大きな影響を与えているという意識が薄れがちになり、ときには不用意に言ってはいけない言葉（暴言）を遣ってしまうということもあります。私自身も、これまで子どもの心を傷つけるような言葉を遣ってしまった経験があります。当時は、子どもに謝罪するなど正直言って考えることもなかったように思います。しかし、今は自分の言動が間違っていたら素直に謝れる気がします。このように「言葉」にこだわることは、「いのちを大切にできる子は言葉も大切にできる」という思いがあるからです。テレビやゲームなどの影響もあるかもしれませんが、大人も含めて、多くの子どもたちが「きつい言葉」や「強い言葉」に慣らされて、相手のことを思いやる気持ちや感謝の気持ちを表す言葉を知りません。こうしたコミュニケーション力の不足が、ひとりひとり違いのある子どもたちの心の通じ合いや理解し合うことを妨げているのではないのでしょうか。

### 『ひとつのことば』 北原白秋

ひとつのことばでけんかして ひとつのことばでなかなかおり ひとつのことばで頭が下がり  
ひとつのことばで心が痛む ひとつのことばで楽しく笑い ひとつのことばで泣かされる  
ひとつのことばは それぞれに ひとつの心を持っている きれいなことばはきれいな心  
やさしいことばはやさしい心 ひとつのことばを大切に ひとつのことばを美しく

私たち人間は「言葉」という素晴らしい、そして優れた文化をもっています。当然のことながら、心の中は目には見えませんが、言葉によって目には見えない心の中を表現することができます。また、私たち人間は舌刃(ぜつとう)という凶器を持っています。舌の刃と書くそのままに、まるで刃(やいば)のごとく相手を傷つけ、時にはグサッと切り裂く……。何気なく発した言葉でも誰かのことを傷つける場合があります。その反面、誰かに温かく声をかけてもらったり、柔らかみのある言葉を聞いたりすると、何だかこちらも優しい気持ちになります。言葉には力があります。心があります。だからこそ、常に言葉の使い方には気をつけたいものです。

### 大人(教師・親)からかけられる嬉しい言葉

「ありがとう」「よくやったね」「よくできたね」「がんばれよ!」「おかげで助かったよ」  
「さすがだね」「やればできるよ」「君なら大丈夫」「こうしたら、もっといいよ」  
「もう一息だね」「焦らず、がんばれ」「お父さん(お母さん)もううれしいよ」

